

# Argentina

アルヘンティーナ

No. 73

サン・マルティン将軍像 (在日アルゼンチン大使館ご提供)



## 一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2023年8月

理事長ご挨拶 (永井慎也).....	2	ジェトロ・ブエノスアイレス便り (西澤裕介).....	7
125周年を迎える日・アルゼンチン関係 (山内弘志).....	2	懇親会報告 (松本良彦).....	8
故友國八郎会長の思い出 (永井慎也).....	3	総会・理事会報告 (阿部和子).....	10
テンポーネ新大使ご着任 及び カンポイ公使送別 (宍戸和郎).....	4	Resumen en castellano (Irene Gashu).....	11
日本アルゼンチン協会 一般社団法人化から10年 (荒尾保一).....	5		



## 理事長ご挨拶

永井 慎也

さる6月2日、コロナ禍により、数年にわたり開催を見送っていた懇親会を、アルゼンチン大使館のご厚意により、同大使館にて開催することができました。ただ、天気予報は、その日を直撃するかのような、嵐に近い悪天候で、皆様のご出席について気をもんでおりました。結果は、何名かの方のキャンセルはありましたが、予想以上の多数の方のご参加をいただきました。

私は、改めて、会員の皆様のアルゼンチンへの強い思いを感じることができ、感激しております。タンゴやアサード、ワイン、サッカー、各地に広がる多くの観光地、日々の生活の思い出など、アルゼンチンの魅力は、尽きることはありません。ビジネスの上でも、農産物や鉱物資源の供給源として、また、中南米の地域大国として日本の工業製品の輸出先として、重要であり、ご苦労を重ねた会員の方も少なくないと存じます。

このようなアルゼンチンとの絆（きずな）の大切さを、会員の皆様とともに、今後とも胸に強く持っていきたいと念じております。

協会としましては、このような皆様の強い思いにこたえるべく、各種イベントの企画、情報の発信など、より一層努力して参りたいと考えております。

先日、着任されたばかりのテンポーネ（Tempone）新大使にお目にかかりご挨拶する機会を得ましたが、大使館は、今年が両国修好125周年にあたるので、各種催しを実施中です。協会としても、新大使のお力添えをいただきつつ、125周年祝賀行事開催に取り組みたいと考えております。

最後にはなりましたが、会員の皆様のこれまで以上のご鞭撻、ご協力のほどを心よりお願い申し上げます。

（ながい しんや：当協会理事長・元アルゼンチン大使）

## 125周年を迎える日・アルゼンチン関係

山内 弘志

私は昨年12月に着任しましたが、今年1月には林外務大臣をお迎えし、6月には参議院議員団をお迎えすることができました。コロナ禍に伴う制限の緩和が進んだこともあり、日系人も含む様々な団体の主催する交流行事も活発に行われております。今年は外交関係樹立125周年ということもあり、日本とアルゼンチンとの交流が再び再稼働しつつあるように感じます。

現在、国際社会は米中競争、国家間競争の時代に突入していると言われており、安全保障のすそ野が広がり、サプライチェーンの強靱化が課題となるなど我が国を巡る国際環境も大きく変化しつつあります。自由、民主主義、人権といった普遍的価値への挑戦も発生している中、アルゼンチンは共通の価値観を国是とする重要なパートナー国です。

さらに、アルゼンチンは、リチウム、銅などの鉱物資源を豊富に有し、シェールガス埋蔵量も世界2位と



されており、今後の輸出も視野に入れた投資も実現しつつあります。また、広く多様な国土を活用した太陽光、風力等のクリーン・エネルギーの開発の推進にも取り組んでいます。

ロシアのウクライナ侵略もあり、食糧の価格も上昇する中、アルゼンチンは、伝統的な食糧生産国として、

大豆、とうもろこし、小麦などを世界に輸出しているほか、牛肉などの牧畜業も盛んです。さらに海老など海産物も日本に輸出しています。

また、米国によるニアショアリングの動きもあり、比較的高い教育水準を誇るアルゼンチンの人材活用を視野に入れたIT投資も行われております。

このように様々な分野で、アルゼンチンが再び注目を集める環境が整ってきていると言えるでしょう。

しかし、ドル高、高いインフレ率などに加えて、今年は厳しい干ばつの影響も相まって、100%を超える年間インフレ率と低成長が予測されており、IMFとの合意遵守に四苦八苦しているという現状があります。特にドル不足は深刻で、各種外貨規制を強化しているほか、IMFとの合意修正のために交渉を行っております。また、貧困率は41%を超えると予測されており、足下の経済状況は厳しい局面が続いております。

その中でアルゼンチンは本年10月に選挙を迎えます。与党ペロン党を中心とする政党連合と野党連合に加えて、第三の候補として個人の自由の尊重を重視するリバタリアンのミレイ下院議員が加わり、三つ巴の

争いとなっております。今年の選挙はアルゼンチンの今後の方向性を規定する分水嶺とも言えるでしょう。

日本とアルゼンチンは、その時々政権にかかわらず、良好な関係を築いてきました。日露戦争の前の時期の軍艦の売却、関東大震災の際の支援、第二次世界大戦後の支援などは、それぞれ異なる傾向の政権の下で行われており、両国関係の基盤は幅広いことを示唆しています。その根底にあるのが両国の架け橋とも言える日系社会の存在ですが、日本企業、サッカー、タンゴなどの文化、またアルゼンチンにおける強い日本文化への関心なども両国の関係を支えています。

アルゼンチンは、ローマ教皇、グロッシーIAEA事務局長等国際場で活躍する人材のほか、著名な音楽家、芸術家、文筆家などを多数輩出してきました。最近では中国の進出も目立つようになりましたが、依然日本に対する信頼感が高いです。民主主義、人権尊重などの共通の価値観を有するアルゼンチンは、日本にとってさらに重要なパートナーとなる可能性を秘めており、そのために大使として尽力して参ります。

(やまうち ひろし：在アルゼンチン特命全権大使)



## 故友國八郎会長の思い出

永井 慎也

友國會長がお亡くなりになりました。

今でも信じられない気持ちでいっぱいです。「やあ！」とよく声をかけて頂いたのが、まるで昨日のようです。

協会の仕事を何年かご一緒にやらせていただきましたが、ご出身が、かの「商船三井」であるためか、私の印象は、「海の男」でした。一面で、「豪放磊落」、他面で、「緻密」、すなわち、海という、とてつもなく大きな自然を前にして、たじろくことなく、仕事を貫徹していく中で、自然と身につけられたであろう、豪放磊落、しかし、海という、危険な状況の中で、下手をすれば命とりになる結果を避け、無事に仕事を完了するためには、緻密であることが、必須です。

協会については、この「豪放磊落」、及び、「緻密」という、二つの特性が、遺憾なく発揮されたと思います。ボランティア活動ではあるものの、対外的には責任を伴う協会会長のポストを、「豪放磊落」にこなさ

れ、しかし、小とはいえ、組織維持のために必須の「兵糧」(資金)の確保のために、「緻密」さを発揮され、いくつかの具体性を持ったお考えを示していただきました。

そして、友國會長が、会長として、最後まで、気にかけてられたのは、後任の会長の選定でした。これは、やはり、その「緻密」さによるものと言えます。お元氣なうちに、引き継いでいただく方の確保を行って頂いたことは、現在、遠藤会長というすばらしい会長のご就任につながっています。

このようなご功績が、アルゼンチン政府からも高く評価されて、叙勲に至りました。きっかけは、在日アルゼンチン大使に対する新年祝賀のための会長ご訪問でした。当時のペロー大使は、協会側の打診に対し、非常に積極的に対応され、数か月後という、異例に早い、大使公邸における協会懇親会の際の友國會長ご退

# 日本アルゼンチン協会 一般社団法人化から10年

荒尾 保一

## 1. 公益社団法人制度改革の意義

平成20年12月、公益法人制度の大改革が行われた。それまで、公益法人は、民法の規定に基づく社団法人又は財団法人として、民間の公益活動を行ってきた。

しかしながら、この公益法人制度は、1) 主務官庁制のため、新規設立が難しい、2) 公益性の判断基準が不明確である、3) 営利類似のものなど公益とはいえない法人が混在しているなどの問題点が指摘されてきた。

これらの指摘を踏まえ、また多様化する社会的ニーズに対応するため、民法から公益法人に関する規定が削除され、民法施行以後110年ぶりに、公益法人制度の大改革が実施された。

新制度では、一般社団法人及び一般財団法人のグループと公益社団法人及び公益財団法人のグループに二分されることになった。一般法人グループは、準則主義で、官庁の認可は不要となり、登記のみで設立できるようになった。他方公益法人は、公益目的事業を目的とする法人であることを民間有識者で構成する公益法人等認定委員会又は都道府県が認定することとなった。公益法人は、寄付優遇税制の対象となる。

平成20年当時の旧民法法人は、約2万4千あったが、このうち約9千が新制度の公益法人となり、約1万1千5百が一般法人に移行した。

## 2. 一般社団法人への移行手続

上述の如く、新制度では、一般社団法人は、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」(以下「新法」という。)の規定に合致すれば、官庁の認可等は必要とせず、登記のみによって設立できることとなった。

しかし、旧民法法人から移行する場合は、旧民法法人は税制上の優遇措置により一般の法人よりも有利な条件の下に資産形成ができたとの理由から、公益法人等認定委員会又は都道府県の認可が必要とされた。

日本アルゼンチン協会もこの対象となり、4. に記す手続が必要であった。

## 3. 社団法人日本アルゼンチン協会の歩み

1898年、日本とアルゼンチンの間に、日亜修好通商条約が締結された。日本とアルゼンチンの間には、明治時代の「日進」「春日」の譲り受け、日本からの移民の受け入れなどを通じて極めて友好的な関係が保たれてきた。第2次世界大戦の前にも、高松宮殿下を初代会長とする「日亜協会」という団体が活動をしていた。

戦後、いち早く救援物資がアルゼンチンから届くなど友好関係が復活し、民間団体による友好親善関係を再開すべきだとの機運が醸成された。これを受け、協会設立の動きが開始され、昭和25年日本アルゼンチン協会の設立総会が開催され、初代会長に神奈川県知事内山岩太郎氏が選任された。

この段階では任意団体であったが、昭和32年7月25日付けで民法の規定による認可があり、社団法人日本アルゼンチン協会が発足した。本協会の主務官庁は外務省であり、2~3年に1回、立ち入り検査が行われた。

歴代会長は、次のとおりである(敬称略)。初代内山岩太郎(神奈川県知事 昭和32年7月~同46年11月)、2代目大久保利隆(元駐アルゼンチン大使 同47年4月~同54年4月)、3代目永野重雄(日本商工会議所会頭 同54年4月~同59年5月)、4代目斉藤英四郎(新日本製鉄(株)会長 同59年8月~平成14年6月)、5代目土屋義彦(埼玉県知事 同15年5月~同20年10月)、6代目友國八郎((株)商船三井会長 同21年5月~同29年4月)

会員には、新日本製鉄、商船三井、東京銀行、主要商社などの法人会員及びアルゼンチン駐在の経験者、アルゼンチンに関心のある有志等の個人会員が多数加入していた。

協会は、アルゼンチン大使館との密接な協力のもと、懇親会、両国代表の赴任、帰朝時の歓送迎会、講演会、タンゴ演奏会など多岐にわたる活動を展開した。スペイン語講習会は、定員を越す活況を呈した時期もあった。

#### 4. 一般社団法人への移行手続

前述の新法の制定により、民法の規定により設立された旧公益法人は、新法施行後5年以内に新法に基づく法人に移行することが必要となった。移行しない場合は、解散となる。

当協会も、直ちに準備に入った。最も重要な問題は、一般社団法人と公益社団法人のいずれに移行するかという選択であった。公益社団法人となるためには、公益社団法人及び公益財団法人に関する法律第2条第4号に規定する学術、技能、慈善その他の公益に関する事業で不特定かつ多数の者の利益に寄与する事業（公益目的事業）の比率が、当該法人事業の全事業の二分の一以上であることが必要であった。

当協会は、この基準に適合すると言えなくもないが、経理的基礎、技術的能力についてもかなり厳しい認定が行われることを考慮すると公益社団法人への移行はかなり困難であると思われた。事実、他の多くの社団法人においても一般社団法人へ移行する法人が多かった。最も典型的事例は、財界最大の団体「経団連」が一般社団法人を選択したことである。このようなことから、当協会も一般社団法人へ移行することで意見集約が行われた。

しかし、一般社団法人であっても、前記2. に記述した理由から、移行について公益法人等認定委員会の認定を受けなければならなかった。この手続に多くの時間と労力が必要であった。新法人の定款については、委員会が作成したモデル定款があり、委員会事務局の担当官は、このモデルを金科玉条のように考え、これにほとんど類似した定款を作ることに固執した。当協会のように規模の小さい団体では不要と思われるような手続についても規定を置くように求めてきた。たびたび交渉し、モデル約款とは若干異なるが、法律の許す範囲内で最小限必要と思われる手続に限定することができたと思っている。

また、移行時に旧法人が有する純資産額を基礎に計算した「公益目的財産額」を、新法人への移行後に公益目的事業に消費する「公益目的支出計画」を作成し、委員会の認定を受けなければならなかった。

これらの手続について、委員会事務局と度重なる協議ののち、平成24年9月27日付で内閣総理大臣あてに認可申請書を提出し、同年11月16日付の公益法人等認定委員会の法律に適合する旨の答申を経て、平成25年3月21日付で内閣総理大臣より認可書を受領した。

その後、事務局において、「特例社団法人の名称変更による一般社団法人設立登記申請書」を東京法務局港出張所へ提出し、移行の登記を行った。これにより、社団法人日本アルゼンチン協会は平成25年4月1日付をもって解散し、同日付けをもって、一般社団法人日本アルゼンチン協会へ移行した。

また、移行の際提出した「公益目的支出計画」については、平成26年11月17日付をもって同計画の実施が完了したことの内閣総理大臣の確認書を受領し、一般社団法人への移行の一切の手続が完了した。

#### 5. 一般社団法人の歩み

当協会は、一般社団法人移行後も、旧社団法人の事業を引き継ぎ、日本・アルゼンチン両国間の友好促進のための各種の事業を行っている。

この間、平成29年4月、友國八郎会長が勇退され、遠藤信博NEC会長が第7代会長に就任された。また、平成27年5月には、副会長兼理事長であった木島輝夫氏から永井慎也理事長への交代があった。

最近の3年間にわたるコロナ禍により、協会の事業が影響を受けたことは否めないが、南米の大国、G20の有力メンバー、農畜産物をはじめ資源大国としてのアルゼンチンとの長い間の友好関係の発展のために、当協会の果たす役割は決して小さいものではない。会員各位の一層のご協力をお願いする次第である。

(あらお やすいち：当協会前理事)



# ジェットロ・ブエノスアイレス便り

西澤 裕介

2019年12月にアルベルト・フェルナンデス政権が発足してから間もなく4年が経とうとしています。アルベルト・フェルナンデス政権はその船出早々、新型コロナウイルス感染症の蔓延という問題に直面しました。サプライチェーンの断絶など、新型コロナにより生じた世界規模の問題は、アルゼンチン経済にも影響を及ぼしました。新型コロナが沈静化した後も、ペソ安とインフレを生み出す構造的な問題がアルゼンチン経済をむしばみ、2023年の実質GDP成長率は前年比3.0%減、インフレ率は148.6%に達すると見込まれています。

今年は大統領選挙が行われます。8月13日に予備選挙(PASO)、10月22日に本選挙、大統領が本選挙で決まらなければ、11月19日に決選投票が行われます。苦境にあるアルゼンチン経済の立て直しに向けて、誰が大統領になるのか、どの政党連合が政権を取るのかに注目が集まっています。

## <現政権への厳しい評価>

フェルナンデス政権は、発足当初から新型コロナ蔓延当初までは高い支持率を得ていました。コロナにより売り上げが減った企業への従業員の給与補填「雇用および生産のための緊急援助プログラム(ATP)」や自営業者や非正規労働者への現金支給「緊急家庭収入(IFE)」といった支援を矢継ぎ早に導入したことが国民から評価されました。その後、新型コロナワクチンの政府関係者の友人知人への優先的な接種や大統領公邸において行動制限下で大統領夫人のパーティーを開催するといったスキャンダルの発覚、IMFとの債務交渉、フェルナンデス大統領とクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル副大統領(CFK)の確執、経済情勢の悪化を受けて、支持率は急落していきます。アルゼンチンのトルクァット・ディ・テラ大学が毎月公表する政府信頼度指数(ICG)をみると、2023年6月時点のフェルナンデス政権への評価は、過去14年で最低水準です。サン・アンドレス大学の調査によると、2023年3月時点の現政権の支持率は17%と、最も高かった2020年4月から50ポイントも低下しました。与党連合の「全ての戦線」(2023年選挙では「祖

国のための同盟」に名称変更)にとっては逆風が吹いています。

## <予備選挙の仕組み>

PASOの正式名称は全党同時開放型義務的予備選挙で、本選挙に立候補



するにはPASOに立候補しなければならず、全政党の参加により実施されます。PASOで有効票と白票の合計で1.5%以上の得票率を得られなかった候補は本選挙に参加できません。また、政党や政党連合がPASOまでに候補者名簿を一本化できなかった場合、PASOに複数の候補者名簿を提出し、有権者の選択によって候補者名簿を一本化します。つまり、PASOは、泡沫候補の足切りと党内候補の一本化を行う仕組みです。

## <与党連合はマッサ経済相を大統領に選挙戦へ>

PASOへの候補者名簿の提出期限は6月24日でした。与党連合は候補者名簿の一本化を目指しましたが、直前までフェルナンデス大統領の中道派とCFKの急進派の間で候補者を集約することができませんでした。中道派からはダニエル・シオリ駐ブラジル大使が立候補する意思を表明する一方、CFKは、エドゥアルド・デペドロ内相を擁立すると発表し、一本化は難しいと思われましたが、最終的には与党系の州知事らの後押しを受けたセルヒオ・マッサ経済相が統一候補となりました。社会運動家のファン・グラボイス氏を候補とする名簿も提出されたため、正確には統一候補ではありませんが、実質的にはマッサ経済相を統一候補と言って差し支えないでしょう。マッサ経済相は、インフレや債務問題の責任者でもあります。特にインフレが高止まりしているため、厳しい戦いが予想されます。

## <野党連合の内部抗争が懸念材料に>

2021年の中間選挙で勝利し、今回の選挙の本命と目されているのが野党連合「変革のために共に」ですが、候補者名簿を統一することができず、タカ派とハト派がそれぞれ候補者名簿を提出しました。タカ派は、マウリシオ・マクリ前大統領が支持するとみられるパト

リシア・ブルリッチ共和国提案（PRO）前党首・元治安相、ハト派は、オラシオ・ロドリゲス・ラレッタ現ブエノスアイレス市長を大統領候補としました。ブルリッチ氏は、右寄りの言説でカリスマ性があり、困難に立ち向かう印象があります。公職に就いていないので、実績を見せられないのが弱点です。一方、ラレッタ氏は、現職のブエノスアイレス市長ということもあり、資金力と組織力で勝るものの、行政や公共工事など表面的かつ官僚的なメッセージが多いという一面があります。野党連合は今回の選挙で政権に復帰する可能性を強く意識しています。勝利を当然視することが内部の争いをより強力なものにしているとみられます。

### <若者の支持を集める第三勢力にも注目>

第三勢力として注目されているのが、「自由前進」の大統領候補、ハビエル・ミレイ下院議員です。新自由主義的な主張で注目を集めており、既存政党や政治に不信感を持つ若者が彼を支持しています。ミレイ氏は、テレビ、ラジオといったメディアを巧みに使い、メディアはミレイ氏の発言、特にドル化や臓器売買（お金の困れば自分のものなのだから臓器を売ればよいと主張）を取り上げていますが、ミレイ氏を支持する人は、彼の言っていることを支持しているわけではなく、新しい提案であることを重要視しているようです。与党連合、野党連合共にPASOで大統領候補を決めること



野党連合「変革のために共に」のラレッタ候補の選挙広告

になりましたので、ミレイ氏がPASOで最も多くの票を集める可能性すらあります。ただ、ミレイ氏の組織は全国組織ではないため、仮に大統領になれたとしても既存政党との同盟は不可避で、結果として穏健化する可能性があります。

前回、2019年の選挙時も経済情勢は厳しく、当時の与党連合（現在の野党連合）は敗北しました。現在のアルゼンチン経済はさらに厳しい状況にあります。選挙の行方は最後までわかりません。有権者の選択を見守りたいと思います。

（2023年6月30日 記）

本稿はあくまで執筆者個人の考えを述べたものです。

（にしざわ ゆうすけ

ジェットロ・ブエノスアイレス事務所 所長）

## 懇親会報告 ～ 4年振りの開催で大盛況～

松本 良彦



総会の模様

第11回定時総会終了後の6月2日（木）午後6時30分より協会会員懇親レセプションが、カンポイ代理大使のご厚意により大使公邸サロンで開催されました。

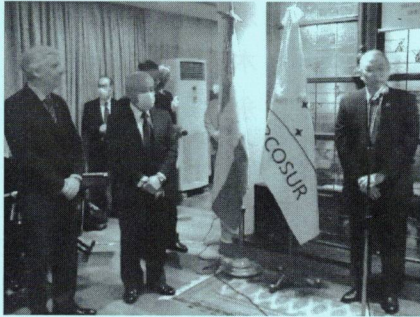
2020年初頭から猛威を振るって来た新型コロナウイルスは約3年半の月日を経て2023年5月8日を以て季節性インフルエンザや感染症胃腸炎などの一般的な感染症と同等の5類感染症に分類、緩和され、国の方針として、感染対策は個人の選択を尊重し、国民の自主的な取り組みをベースとした対応に変わったことが

ら当協会としてもこのことを尊重し、コロナ以前の懇親会の開催が可能であると判断、開催に漕ぎつけたものです。

当日は台風2号と前線の影響で時折強い風雨に見舞われたに係わらず128名もの方々にご参加頂けたこと並びに懇親会をご提供いただいたカンポイ代理大使他大使館の方々のご厚意にも深く感謝申し上げます。

懇親会は遠藤信博会長挨拶、セサル カンポイ代理大

使挨拶、小林麻紀中南米局長の挨拶・乾杯で会は始まり、池田達則率いるタンゴカルテットの演奏の下、会は佳境に入り、当協会の会員でもある日本アルゼンチンタンゴダンス連盟の方々の自然発生的なダンス参加も頂き、当協会の懇親会の趣旨に相応しい相互理解を深めた楽しいフレンドシップに満ちた会となることが出来るとともに、永井慎也理事長の締め言葉にて恙なく成功裏に会を終えることが出来ました。



遠藤会長挨拶

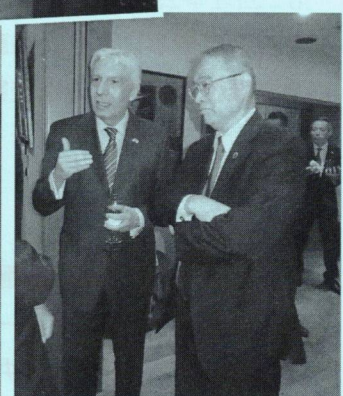
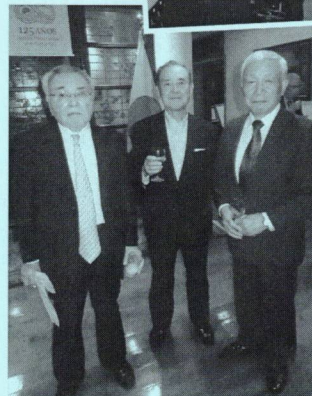
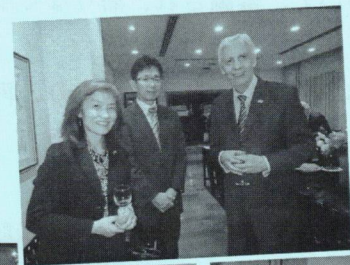


カンポイ代理大使ご挨拶



外務省 小林局長ご挨拶

パタゴニア牛のアサード、エンパナーダ、チョリパン等のアルゼンチン料理、お寿司、サラダ、フルーツ、デザート、アルゼンチンワイン等バラエティに富んだ料理の提供も懇親会を大いに盛り上げ、成功裏に終えることの一助となったことも付け加えさせていただきます。



最後に、アルゼンチン大使館関係者、日本外務省関係者、アルゼンチンとの友好関係にある茨城県境町教育長と関係者の皆様にご来場いただいたことあらためて感謝申し上げます。

(まつもと よしひこ：当協会業務執行理事)





# 総会・理事会報告

阿部 和子

6月2日（金）アルゼンチン大使館小講堂に於いて  
下記の如く総会・理事会を開催した。

- ・令和5年度第1回理事会 16：20～
- ・第11回定時総会 17：10～
- ・令和5年度第2回理事会 17：50～

第1回理事会では、令和4年度事業報告並びに令和4年度収支決算報告が承認されると共に、第11回定時総会に上程する6議案が原案通り承認・可決された。

第11回定時総会では、第1回理事会で承認・可決された6議案について、審議され、滞りなく承認・可決された。

本年度は理事・監事の改選期に当たり、再任を含めて23名の理事と2名の監事が選任された。

第2回理事会では、第11回定時総会で承認された理事ならびに監事により、遠藤議長から示された役付理事及び業務執行理事の選定案が承認され、新体制がスタートした。

**理事：**

阿部和子、飯塚久夫、伊藤誠、遠藤信博、勝田富雄、加藤勝巳、川上貴、イレーネ賀集、木島輝夫、穴戸和郎、寺本安久、永井慎也、藤田悟郎、保坂庄司、松木俊哉、松下洋、松本良彦、的場博子、安田衣里、吉村佳人、渡部千秋、※井尻收一、※川崎宏  
以上理事23名（※は新任）

**監事：**

西脇修、横山稔 以上監事2名

会長・代表理事  
副会長・代表理事  
理事長・代表理事  
常務理事・業務執行理事

同  
同  
同  
同

業務執行理事

同  
同  
同  
同

顧問

同  
同  
同  
同  
同

遠藤 信博  
木島 輝夫  
永井 慎也  
川上 貴  
勝田 富雄  
寺本 安久  
保坂 庄司  
吉村 佳人  
渡部 千秋  
阿部 和子  
伊藤 誠  
穴戸 和郎  
藤田 悟郎  
松本 良彦

荒尾 保一（新任）  
斉木 茂治（重任）  
白鹿 敦己（重任）  
津島 勝二（重任）  
鶴岡 忠成（重任）  
星野 美智子（重任）

（あべ かずこ：当協会業務執行理事）



# Resumen en castellano

por Irene Gashu

## Saludos del Director General (p. 2)

Por Shinya Nagai

El pasado 6 de junio pudimos realizar en la Embajada Argentina, la fiesta de nuestra Asociación. Una vez más, sentí una profunda emoción al comprobar el entusiasmo de nuestros socios por Argentina. Hace poco, tuve el placer de conocer al recién llegado Embajador Eduardo Tempone. Nuestra Asociación se sumará a las actividades para celebrar los 125 años de amistad entre ambos países.

## 125 años de amistad entre Japón y Argentina (p. 2)

Por Hiroshi Yamauchi, Embajador de Japón en Argentina

Este año se celebran 125 años del establecimiento de relaciones diplomáticas entre Japón y Argentina. Argentina es rica en recursos naturales. Su nivel de educación es relativamente alto. Sin embargo, su situación económica es difícil. Se estima que la pobreza superará el 41 %. Como Embajador me esforzaré para que ambos países sigan siendo socios con valores comunes compartidos.

## Recordando al Presidente Hachiro Tomokuni (p. 3)

Por Shinya Nagai

Falleció el Presidente Tomokuni. Todavía no lo puedo creer. Por asuntos de nuestra Asociación, trabajé con él unos años. Una persona abierta y meticulosa al mismo tiempo. Ser Presidente de nuestra Asociación, si bien es un trabajo voluntario implica mucha responsabilidad. Seguramente, el ser abierto y meticoloso le sirvió para desempeñarse con éxito. Su trayectoria fue reconocida por el gobierno argentino que le otorgó una condecoración. Que en paz descanse.

## Nuevo Embajador Eduardo Tempone y despedida al Ministro César Campoy (p. 4)

Por Kazuro Shishido

El pasado 14 de julio, el Director General Shinya Nagai y el Director Ejecutivo Yoshito Yoshimura, realizaron una visita de cortesía a la Embajada para saludar al nuevo Embajador Eduardo Tempone. El 19 del mismo mes, el Presidente Nobuhiro Endo y otras autoridades de nuestra Asociación fueron a la residencia del Embajador para despedir al Ministro César Campoy que pronto finalizará su gestión de más de 5 años en Japón.

## La Asociación Nippon-Argentina: 10 años desde que se convirtió en una “ippan shadan hojin” (p. 5)

Por Yasuichi Arao

Antes de la gran reforma, el Código Civil japonés establecía dos tipos de personas jurídicas: de interés público y de interés particular; pero resultaba difícil delimitarlas. Después de la gran reforma, se crearon dos tipos de personas jurídicas de interés público: “koueki shadan hojin” e “ippan shadan hojin”. El trámite para constituir la primera es más complicado y exigente que el trámite para la segunda. Nuestra Asociación fue constituida formalmente el 25 de julio de 1957. Después de muchos trámites, pudo convertirse en una “ippan shadan hojin” el 1 de abril de 2013. El rol que ha cumplido y seguirá cumpliendo nuestra Asociación, en el desarrollo de las relaciones amistosas entre ambos países, es innegable.

## Desde JETRO Buenos Aires (p. 7)

Por Yusuke Nishizawa

Se estima que el crecimiento del PBI en 2023 se reducirá un 3% respecto al año anterior y la inflación será de 148,6%. Este año es un año de elecciones. Por la coalición política gobernante, es candidato el actual Ministro de Economía Sergio Massa. Por la coalición opositora, son candidatos Patricia Bullrich y Horacio Rodríguez Larreta, el actual Jefe de Gobierno de la Ciudad de Buenos Aires. Una tercera fuerza es el candidato Javier Milei, actual Diputado Nacional, apoyado por la gente joven. El resultado de las elecciones no se sabrá hasta que se realicen.

## Fiesta de nuestra Asociación (p. 8)

Por Yoshihiko Matsumoto

Después de la Asamblea General de nuestra Asociación, se realizó la fiesta para socios en la residencia del Embajador de Argentina. Asistieron 128 personas. Hablaron el Presidente Nobuhiro Endo, el Ministro de la Embajada César Campoy y la Directora General de América Latina y el Caribe del Ministerio de Asuntos Exteriores de Japón Maki Kobayashi. Seguidamente, los socios disfrutaron de un recital del cuarteto de tango encabezado por Tatsunori Ikeda y saborearon un asado de carne patagónica, empanadas, choripanes, vinos y otras delicias argentinas. La fiesta terminó con un saludo del Director General Shinya Nagai.

(ガシュー イレーネ：当協会理事)

## 会員の皆様からの自由なご意見、情報、原稿投稿をお待ちしています

投稿先：E-mail: nippon@argentina.jp

Fax: 03-6809-3682 電話 03-6809-3681 担当：阿部

\* 住所変更の連絡もこちらへ宜しくお願い致します。

### 令和5年度 年会費納入のお願い

本年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の年会費のお支払いをまだ済まされていない方は、早めのお手続きをお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円



### 編集後記



4年ぶりに会報「Argentina」をお届けします。新型コロナウイルスの影響で取りやめを余儀なくされた協会の各種事業も、ようやく再開できるようになりました。今回から編集長を務めることになりましたが、初めてのことで手探りでの作業となりました。無事発行に漕ぎつけることが出来、安堵しております。原稿執筆をお引受け下さった各位や関係者に、この場を借りて御礼申し上げます。（編集長）

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第73号

2023年8月10日発行

発行人 永井慎也（当協会理事長）

編集長 穴戸和郎（当協会業務執行理事）

編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会

〒107-0052

東京都港区赤坂1丁目1番17号

細川ビル704号室

電話：03-6809-3681

FAX：03-6809-3682

E-mail：nippon@argentina.jp

URL：https://argentina.jp/

印刷

株式会社 イデア・インスティテュート